

## 平成28年度 県立水戸第一高等学校自己評価表

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>目指す学校像</p> <p>○授業を中心とした、新鮮で活気ある学習活動を展開する学校</p> <p>○生徒が、特別活動(学校行事、ホームルーム、生徒会活動)、部活動など多様な活動機会の中で切磋琢磨し、能動的な経験を蓄積しながらたくましく成長できる学校</p> <p>○生徒一人ひとりの進路希望実現に貢献できる学校</p>	教育課程の工夫改善と学習指導の充実	①単位制を活用しながら、教育課程の工夫改善を行い、より教育効果の高い学習指導の充実を図る。	A
		②土曜課外を計画的に実施し、学力の向上を図る。	B
		③生徒一人ひとりの「進路志望」に応じた選択を実現するため、科目選択のガイダンス等の充実を図る。	B
		④60分授業の効果を高めるために、さらなる授業の質の向上を目指して、授業に係る研修機会の確保・充実に努める。	B
	進路意識の高揚と3年間を見通した学校生活の充実	⑤卒業生の協力を得て、高度な専門分野に興味・関心を抱いている生徒対象の進路講演会などを開催する。	A
		⑥新入生のための合格者ガイダンスなど、3年間を見通した学習や充実した学校生活を実現させるための指導を行う。	B
	健康安全指導の充実	⑦健康安全に留意し、心身ともに健康で、生き生きとした学校生活を送れるよう指導する。	B
	特別活動等の充実	⑧特別活動(学校行事、ホームルーム、生徒会活動)、部活動等の充実をはかり、創造性を養い、自主自立の精神の確立に努める。	A
		⑨学校行事を適切に配置することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。	B
	将来を見据えた教育活動の見直しと充実	⑩グローバル化する社会に対応できる人材を育成するために、変化する社会を見通しながら、教育活動の見直しと充実を図る。	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
各 科 共 通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	着地点を見据え、また時にそれを生徒に示して意識させることで、進路意識を高めつつ指導することができた。次年度はさらに徹底することを目指したい。	
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の定着を図り、授業の進捗や指導内容を再構築し、授業内容の充実にも努める。	A		60分を有効に使うため、各学年とも小テストを実施したり、また生徒の習熟状況に応じて進度や指導内容を軌道修正しながら進めることができた。次年度も継続したい。
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	B		各自や学年担当者間においては常時授業に係る研修を重ねることで指導方法の研究を進めたが、教科全体として研修を持つ機会を作ることができなかった。次年度はその機会を持つよう計画したい。
国 語	国語の学習に対する意欲・関心を高める。	○授業方法を工夫改善し、教員相互に授業を公開するなど、随時教科内における研修等を行い、指導方法に対する研究を深めていく。 ○指導内容・方法・進度について、各学年の担当者間での打合せを綿密に行う。	B	日々の指導について、各学年の担当者間においては相当綿密に、また頻繁に打合せを行うことができたが、相互の授業公開や教科全体での研修は低調であった。次年度はそのような機会を作ることができるよう計画したい。	
	基礎学力の定着を図り、段階的に難関大学入学試験に対応できる学力の養成を図る。	○小テスト等によって基礎学力の定着を図る。 ○適宜添削指導を実施し、難関大学入試に対応可能な文章読解力と表現力の養成を図る。 ○副教材等を利用し、学習内容の活用を図る。 ○定期考査について、基本から発展までの設問構成を工夫し、平均点50～60点台の問題を考案する。	A		小テストの実施による基礎学力の充実、授業で課した課題や国立大個別試験の過去問題への添削指導、副教材の有効な活用、定期考査における設問構成の工夫については、各自が積極的な意識のもとに取り組むことができた。次年度も継続したい。
	自立的な学習を促し、豊かな言語能力を持った生徒を育成する。	○課題等を生徒の実態に即して適宜与え、生徒が自主的に学ぶ姿勢を育み、段階的に自立的学習に移行できるよう促す。 ○読書意欲を喚起し、読書感想文コンクールへの取り組みを奨励する。	A		課題の与え方については、やみくもにこれを課すのではなく、各学年担当者間の慎重な打合せのもと、段階的に能動的な学習活動へと移行できるように、時期やタイミング、また習熟度をよく考慮しながら課すことができた。次年度も継続したい。
各 科 共 通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	大学の学問内容(歴史学、地理学、政治学、経済学など)との関連を意識した授業を基本としながら、思考力、判断力、表現力などの生徒の能力を伸長する方法について研究を進めたい。	
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の定着を図り、授業の進捗や指導内容を再構築し、授業内容の充実にも努める。	B		本質的なことをわかりやすくを目標に、各科目において授業内容の充実にも努めた。さらなる改善を図っていきたい。
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	B		将来の地歴科における「総合」科目や公民科の「公共」の設定に備え、現行科目において年間の授業計画の見直しや、授業内容・教材・授業方法などの検討に着手したい。教員相互の研修はもとより、積極的に外部の研修会にも参加して新たな情報の確保につとめ、さらなる指導法の向上に努めたい。
地 歴 公 民	知的好奇心に溢れた良識ある若者の育成に即した授業を展開する。	○生徒の学問に対する知的好奇心を高め、社会へ積極的に関わるための教材を準備し、効果的な発問を通じて理解度を確認しながら授業を展開する。 ○国際的な視野を広げる授業内容の研究を行う。 ○授業内容に関連して自ら課題を設定させ、奥行きと幅のある思考力・判断力を養う。	B	1年次での「税の作文」・新聞を利用した課題学習や、2・3年次各科目での科目特有な見方・考え方を養う授業を引き続き継続する。授業で喚起された興味・関心をもとに、生徒自らが課題を設定し、知識を活用して思考力、判断力を伸ばせる探究が行えるよう支援をしていきたい。	
	センター試験・個別試験に対応した授業内容と積極的な問題演習によって、進路実現のための学力伸長を図る。	○国公立大個別試験、難関私立大学試験、センター試験の分析を綿密に行い、授業や考査において、それを反映させることにより実力の向上を図る。さらに、学級間や上位・下位者の差を縮小する指導法を研究し、課外等を積極的に実施する。 ○指導力の涵養を視野に入れ、高い見識の修得を目指した教科研修を積極的に実施する。 ○科目担当者間での授業の進捗、指導方法など綿密な打合せを行う。	A	知識の活用と思考力の発揮を中心とした授業・考査を実施し、入試に必要な実践力を継続して育成することが必要である。3年次の9月からは、国公立大二次試験対策、基礎力養成など多様な課外を実施し、上位者から下位者まで学力の向上と差の解消を図る。科目担当者間で入試問題の研究、授業見学など情報交換を頻繁にして、指導方法の向上を図っていきたい。	
各 科 共 通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	授業や課題で扱う内容に、発展的な問題を取り入れて、生徒が興味・関心をもって主体的に取り組めるように工夫した。継続して指導方法を研究していく。	
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の定着を図り、授業の進捗や指導内容を再構築し、授業内容の充実にも努める。	B		生徒の実態を把握するように努めながら、授業の進捗や指導内容を検討した。次年度も検討を重ねてよりよいものにしていく。
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	B		高教研の大会や予備校主催の研修会等に積極的に参加し、その成果を活かして、指導方法の研究を進めた。さらに教科内で情報を共有し、継続して研究していく。
教 学	授業に積極的に取り組ませるとともに、自主的に数学に取り組む態度を育成する。	○予習・復習を励行させるとともに、課題等の提出を徹底させる。 ○学年担当者間の連絡を密にし、教材の精選と授業内容の充実を図るとともに、様々な解法を例示するなどして、生徒の興味・関心を高める。	B	予習・復習を励行し、学習内容の定着が図れるように指導した。課題の提出率は良好であったが、授業や課題に対して受け身の生徒もいるので、継続して工夫していく。学年担当者間の連絡を密にして、教材を精選し、授業内容の充実を図ることができた。生徒の実態を把握して、よりよい指導方法を探索していく。	
	進路実現のための学力向上を図る。	○考査・試験の問題は精選・検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○入試問題等を日頃から研究し、積極的に授業に取り入れ、入試に対応できる力をつけさせる。 ○入試問題分析会を開催し、(東京大、東北大)入試問題研究や教材研究により教員のレベルアップを図る。	B	学年担当者間で考査・試験の出題内容を検討し、結果を分析して指導方法を工夫した。また、発展的な内容を授業に取り入れた。次年度も継続し、教科内で積極的な情報交換を行ってきたい。また、教科内で、東北大、東大の入試問題分析会を行い、傾向を分析するとともに指導方法について研究した。次年度も分析会を継続して行うとともに、対象大学を増やすことを検討する。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
理科	各科共通 教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A 教科内容への興味関心を高めるような素材を採用し、授業の中での活動を重視してきた。来年度も、工夫を進めていきたい。 生徒の状態を注意深く観察しながら、授業の進度および深度を工夫して進めていった。来年度も継続していきたい。 校内・校外の各種研修会に積極的に参加し、指導技術の向上に努めた。来年度も研修を継続していきたい。
		○60分授業の定着を図り、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実にも努める。	A	
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	A	
	知的好奇心を育て、理科的な思考が身につくよう授業展開を工夫する。	○授業中の演示実験や生徒実験など生徒が実際に実物を見たり、触れたり、測定したりする機会を大切にすることで、理科が本来持っている魅力を生徒が肌で感じられるよう教材・実験を、より新課程に即したものとなるように工夫していく。また、実験後の実験レポートを生徒が理科的思考を身につける重要な機会ととらえ、レポートの作成を経験することで、生徒自ら理解しようとする姿勢を育てる。 ○フィールドワークを中心とした実践的プログラムを体験させることで、課題研究の「目標設定」、「研究方法」、「データ分析」、「結果の考察」、「発表手法」のスキルを向上させ、問題解決能力の向上を目指す。	B	各学年とも多くの観察・実験を取り入れた授業を行った。しかし、2年生は、観察・実験に興味・関心を示す生徒があまり多くなかった。来年度については、新課程が3年終了したことを受けて、各科目における理科的な思考力が見につくような、内容により合った実験を工夫して実施し、生徒の興味・関心もつと惹きつけるようにしたい。
	基本的な知識を定着させるために、授業への集中力を高め、問題演習をできるだけ多く行う。	○「基礎」のついた科目「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」は、その対応策を講じると共に基礎学力の向上と受験を意識した問題演習の充実にも努める。 ○文系の生徒に対しては、基礎力をつけさせる授業をめざし、繰り返し問題演習を行うことにより、基礎学力の定着をはかる。 ○理系の生徒に対しては、先端の内容に触れられるような機会をつくるとともに、単に知識を身につけるのではなく、法則や原理の意味するものを深く考えるよう授業や実験を工夫する。	A	A 「基礎」のついた科目については、昨年度センター試験の問題が、時間内に適正な知識理解をはかる目的からは多少逸脱した状態にあるものが見受けられ、演習量が結果に結びつかなかった生徒がいたため、今年度はその対応策を講じることにより、結果に結びつけることができた。理系に関しては、センター試験からもある程度の学力がついてきたことが示された。来年度については本年の成果を受け、内容をさらに発展させていきたい。
3学年では、センター試験、個別学力試験対応の問題演習を積極的に取り入れ、生徒の進路希望実現に向けて対応する。	○授業においては、普段の授業から個別学力試験(記述試験)に対応できるように、原理の理解や用語の正確な定義などを意識させる授業を行う。 ○センター試験の問題演習を積極的に数多く取り入れるとともに、自主的に問題演習に取り組むように意識付けをする。	A	充実したセンター試験の対策をとることができ、結果に結びつけることができた。個別試験については、まだ結果を掴めていないが、今年度の問題を参考に、指導を深めていきたい。	
生徒に反復学習をさせる。	○原理・法則の理解度は、生徒自身がどれだけ問題演習を行ったかに比例する。そこで、生徒に適切な問題集を与え、問題を解いた結果をノートに書かせ、それを提出させることで、反復練習の機会を提供する。	A	原理原則の理解については、かなり進めることができたと思われる。来年度については、より高度にまた広範に情報を伝える作業を進めていきたい。	
保健体育	各科共通 教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	A 生徒の取り組みは積極的であるが、自ら意欲的に取り組めるような指導を実践していきたい。 3年間で生涯スポーツにつながるマイスポーツの獲得に向けて指導していきたい。 同様の年間スケジュールを3年間サイクルする中で、生徒の伸びを感じさせる指導に努めたい。
		○60分授業の定着を図り、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実にも努める。	A	
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	A	
	歩く会の高い完歩率を維持させる。	○集団行動における規律と態度を学ばせ、有意義な集団生活を送らせる。 ○体力向上のために、計画的な授業計画を立て、意欲的な楽しい展開とする。	A	伝統的な学校行事の意義を理解させ取り組ませることができた。体力向上や健康面への配慮を図りながら歩く会のさらなる発展に向けて取り組んでいきたい。
	体力テストの成績の底上げを図る。	○長距離走への積極的な取り組みにより、体力向上を図る。 ○本校生の弱い部分の強化を図る内容を工夫する。 ○特別活動の体育分野における積極的活動を推進する。 ○本校生徒は筋力に関する種目が弱いので、毎授業において、補強運動を実践する。	A	生徒の体力の向上は本校の活力の源ととらえて指導してきた。基礎体力が低い生徒にも目を配りながら、継続的に粘り強く体力強化に取り組むたい。
授業時のケガの防止に努める。	○正しい動きを身につけることがケガの防止につながるため、細かく基本的な動きを指導するとともに、自ら用具の安全管理に努める態度を育てる。 ○授業に臨むに当たり、熱中症対策を理解し防止策をたてる。 ○校外を走ることが多いので、交通安全に注意して身を守ること、相手に迷惑を与えない行動が取れるように実施する。	B	A 基本動作の習得や安全面の配慮を念頭におき、授業に取り組んできた。しかし、授業における事故・ケガが多く発生している。基礎基本の習得はもとより、授業時の事故・ケガが多く出ている点を鑑みて次年度以降の指導に取り組んでいきたい。	
「保健」をとおして心身の健康保持を図る。	○「保健」をとおし、思春期における生徒の健全な成長を促し、地球環境における自分たちの役割を理解させる。 ○「保健」の授業を通し、思春期における自身の健康課題を理解するとともに、社会的な課題における自身の役割を理解する。	A	「保健」の授業を通じて、思春期における健康課題を理解させ、生活実践に活かす指導ができた。次年度以降、今後ますます進行するグローバル化に対応できる健康行動を視野に入れた指導に取り組んでいきたい。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	B 基礎的な内容を重視し、さらに本質を幅広く深く理解追求する姿勢を意識させ、進路意識もより高まるよう指導を進めた。次年度も継続して行いたい。
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の定着を図り、授業の進捗や指導内容を再構築し、授業内容の充実にも努める。	B	
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	B	
芸術	鑑賞の機会を確保するよう努める。	○校外学習等の鑑賞会を実施して、より多くの作品に接する機会を増やし、本物だけが持つ魅力を体感させ、豊かな感受性と人間性を身につけさせる。	A	A 校外鑑賞学習は、音美書そろつての近代美術館及び芸術館での鑑賞会を実施できた。目標は概ね達成された。
	自発的に、課題に取り組む姿勢を持たせる。	○実技・実習の時間を確保するとともに、その内容を精選し、工夫して実践できるようにする。基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指す。 ○アクティブ・ラーニングを意識した、能動的な学習を取り入れ、より活性化した授業展開を目指す。	B	
	芸術は感性を高め、人生を豊かにするという意識・態度を育てる。	○授業で数多くの作品を取り上げ、鑑賞させる事により、芸術に対する視野を広めさせるとともに、ものを見つめる目を養い、そこから真実を発見しようとする態度を身につけさせる。	A	
各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	B 教材内容に対して興味関心を高める活動を多く取り入れ、生徒が主体的に取り組めるよう工夫した。今後も指導方法を工夫するよう努めて行きたい。
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の定着を図り、授業の進捗や指導内容を再構築し、授業内容の充実にも努める。	A	
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	B	
外国語	1年 英語を読み、書き、聞き、話す活動とその適切な評価を通して、実践的コミュニケーション能力の基礎となる4技能の基本運用力を育成する。	○コミュニケーション英語Ⅰでは、理解と表現のバランスのとれた指導を行い、英文を正しく理解し、コミュニケーションをとるための基本知識と技能を養成する。 ○英語表現Ⅰでは、技能統合型の言語活動を取り入れ、英語で適切に自己表現するための基本知識と技能を養成する。 ○授業での指導内容と関連させながら、サイドリーダーなどの課題学習を効果的に活用し、自ら英語を学ぶ力を涵養し、正確な英文理解力および表現力を養成する。 ○テスト問題の改良や適切なパフォーマンス評価を実施して生徒の英語力を正確に測るとともに、更なる学習の動機付けに資するような評価の在り方を考える。 ○グループやペアワークを多く取り入れ、英語による発信力を強化する。	B	B ワークシートを工夫することで、生徒の言語活動を促進することができたが、習熟度の差が大きくなってきたため、次年度はその点を配慮した指導を工夫していきたい。 生徒間のインタラクションを通してさらなる発信力強化に結びつけるため、グループワークやペアワークによる活動をより効果的に進めるよう指導を工夫していきたい。 課題学習と授業中のグループディスカッションを結びつけることで、読解力と考察力を養成することができたが、課題に取り組む姿勢が不十分な生徒に対する指導も工夫していきたい。 自分の意見を英語でたくさん書かせることで英語の表現力を高め、そのパフォーマンスを評価してきたが、スピーキングについても、授業中の発表などを長期的に評価していく方法を工夫していきたい。
	2年 英語4技能を使った活動を効果的にを行い、正確な英文理解力と表現力を中心に、実践的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。	○コミュニケーション英語Ⅱでは、理解と表現のバランスのとれた指導を行い、英文を正しく理解し、実践的なコミュニケーションの基礎となる知識と技能を養成する。また、特に「読む」力を支える語彙・文法・語法などの知識を高める。 ○英語表現Ⅱでは、より構成を意識した英作文の指導とともに、ディベートなど技能統合型の言語活動を取り入れ、英語で効果的に自己表現するための知識と技能を養成する。 ○サイドリーダーなどの課題学習を効果的に活用し、自ら英語を学ぶ力の涵養と正確な英文理解力・表現力を養成する。 ○調査問題の工夫や適切なパフォーマンス評価(話す・書く)を実施し、生徒の英語力を正確に測るとともに学習の動機付けに資するような評価のありかたを工夫する。	B	
	3年 英語4技能の習熟に努めながら、難関の大学入試レベルにも対応できる、高度で実践的な英語理解力と表現力を育成する。	○英語表現Ⅱでは、大学入試の傾向に対応しつつ、英語で効果的に自己表現するための知識と技能を養成する。 ○リーディング演習では、大学入試問題等をテキストにして、表現活動を取り入れながら、難関大の入試にも対応できる実践的な読解力を効果的に養成する。 ○授業内での音声の活用やリスニング教材の使用により、リスニング力の向上を図る。 ○読解力向上の一環として、読み取った英語の文章を要約させる練習を適宜行う。 ○授業外でも長文・リスニング・英作文の演習を展開し、総合的に英語力を高める機会を増やす。 ○調査問題や小テストを工夫するとともに、エッセイ等のパフォーマンス評価を実施し、生徒の英語力を正確に測るとともに学習の動機付けに資するような評価のありかたを工夫する。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
家庭	各科共通 教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	B 基礎、基本的な習得のため、生徒の実態を把握し、生徒の実情を考慮した実習や実験を多く設定し、確実に「生きる力」を身に付けさせたい。 8クラスの授業を2人で担当しているため、教材や指導方法の話し合いを十分行い、連携をして授業を展開していきたい。 次年度は年間指導の授業を実施する順番を変更する予定であるのでスムーズにいくようにしたい。 高教研家庭部会の被服技術講習会、家庭科技術検定保育講習会への参加等も継続し、次年度も県研修センターでの家庭科授業づくり研修講座の協力者をするようになるので、県内の家庭科の先生方とアクティブ・ラーニングの研修を積極的に行いたい。
		○60分授業の定着を図り、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	B	
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	A	
	各科共通 基礎・基本の内容を体験を通して理解させ、問題を見つけ、よりよい生活に変えていこうとする態度と生きる力を育てる。	○実験・実習内容の工夫と精選をし、知識と体験の定着を図る。 ○自ら学び自ら考える力を育て、身近な生活と自分の人生に反映していこうとする態度が身につく授業の展開と充実に努める。	A	B 生徒にアンケートを実施し、中学校で学習した内容や生徒個人の生活力を把握し、年間を通して様々な分野で基礎・基本となる授業を行うよう計画したい。 夏休みの宿題になるホームプロジェクトに関しては、4月からの授業の中で全員が計画的に進めていけるように支援していきたい。
		○日常生活の中の問題点・改善点を認識させ、生活の質の向上に結びつけさせる。	B	
		○各分野の関連性・重要性を見だし、日常生活と比較させることで、主体的・総合的に生きようとする意識・態度を育てる。		
情報	各科共通 教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	B 表計算やプレゼンテーション等、今学習している内容が今後あらゆる場面で必須となってくることをより強調し、さらなる意識の向上を図っていきたい。 指導要領の改訂を見据え、プログラミング教育の充実等、内容を再構成し授業の充実に努めていきたい。 引き続き、高教研情報部の研修や外部のICT研究大会への参加等を通して、最新の情報を得ることに努める。
		○60分授業の定着を図り、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	B	
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	B	
	各科共通 学習活動を通じ、情報モラルへの知識・理解を深めさせる。	○授業において、インターネット等の活用や言語活動を通して、個人情報の取り扱い、ネチケット等情報モラルへの知識・理解を深めさせる。	B	B モラルに関する知識は定着しているが、生徒がそれを日常生活で確実に実践できるように意識付けていくのが今後の課題である。 プレゼンテーションについての指導では、発表、質疑応答までを生徒が自分たちでおこなうことができた。さらにKJ法等問題解決の手法も取り入れ、内容の深化を図った。今後、ポスターセッション等異なる形式も取り入れていきたい。
		○ワード、エクセル、パワーポイント等のソフトウェアを活用し、効果的なプレゼンテーションをするために必要な「調べる」「まとめる」「発表する」「相互に質疑応答をする」能力を高める。	B	
教務	授業時間を確保する。	○自習をできるだけ避けるため、早めに出張・年休を把握し、可能な限り授業交換をずらす。その際、交換による授業のアンバランスにも配慮する。	B	B 出張・年休による授業もほぼ完全に振り替えることができ、振り替えによる授業のアンバランスにもある程度配慮することができたが、次年度はさらにバランスのとれた振替を目指したい。 曜日・時限ごとの授業時間数のアンバランスは年間1～2時間程度に抑えられ、定期考査と定期考査の間の授業時間数もバランスをとることができたが、次年度はさらに短い期間におけるバランスにも配慮したい。 60分6時間授業は定着しているが、次年度は授業の質のさらなる向上に向けた取り組みを研究構想部と連携して行っていきたい。 新学習指導要領や高大接続改革の動向を見極めながら、本校に適した教育課程についてさらなる検討を続けていきたい。 各説明会や学校公開を予定どおり実施するとともに、校長作成の新しいポスターを各中学校に配付し、広報活動に努めることができたが、次年度は各説明会の内容もさらに検討してよいものにしていきたい。 支援システムの更新は担当者の尽力により順調に運用され、先生方の負担軽減につながっているが、次年度は教務の担当者を増やすなどしてさらに活用していきたい。
	年間の授業回数を均一化する。	○授業の曜日変更をして、定期考査間の授業時数を均一化をはかる。	B	
	授業内容のさらなる充実を図る。	○60分6時間授業をより充実したものとするため、研究構想部と協力して、教員相互による授業研究などを実施する。	B	
	平成29年度以降の教育課程の検討をする。	○単位制を活用し、より教育効果の高いカリキュラムの構築を目指すとともに、大学入試制度の変更を見据えた検討を進める。	B	
	教育活動を公表する。	○中学生対象の水戸一高説明会、小学生対象説明会、学習塾対象説明会を継続して実施するとともに、研究構想部と連携して学校公開等を行い、地域住民等に広く公開する。	A	
	単位制支援システムの運用を図る。	○支援システムの円滑な運用を進めるために、管理体制を見直すとともに、使用法の徹底や活用法の研究をする。	A	
特別活動	特別活動、部活動の充実をはかり、創造性を養い、自主自立の精神の確立に努める。	○生徒の主体的活動を尊重し、対話を深め、生徒一人ひとりが、その持つ能力・可能性を最大限に発揮して積極的に活動できるよう配慮する。 ○ホームルームや各種行事の中で、活発に意見の交換ができるようし、自ら徹底して考え自ら答えを見つけ出せる生徒を育む。	B	A 生徒会組織における本部・協議会・各種委員会は、担当教師の指導助言をもとに活発に活動を展開することができた。本部では、奉仕活動や部活動の施設環境調査等をはじめとして、生徒の声を取り入れながら、より良い学校づくりに取り組んだ。各種委員会も、活発な意見交換の中で積極的に活動できた。次年度に向けては、規程改正作業が進んだ援助費や戸締まりを含めた部室の管理については更に継続して内容を検討していく必要がある。諸問題の解決に向けて生徒との対話を深め、より生徒が自ら考える活動になるよう導きたい。 今年度も各行事は、委員会組織で生徒が主体的に企画運営をし実施した。生徒自身に、自ら考え運営しているという自覚を持たせながら活動が進めることができた。特に今年度は懸案であったクラスマッチの一日化を実現できた。次年度の行事も、より充実したものとなるように、問題意識を喚起し、ホームルームや生徒会での議論を深めさせて、本校の校風を生かした独自の内容を目指したい。
	学校行事を適切に配置することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。	○全日HR・クラスマッチ・学苑祭・野球応援・歩く会等の学校行事がさらに充実したものとなるよう、問題意識を喚起し、ホームルームや生徒会での議論を深めさせて、本校の校風を生かした独自の内容を目指す。	A	
	高いレベルでの文武両道を実現させる。	○部活動・生徒会活動・委員会活動を通して、生徒がより生き生きと活動的な生活が送れるよう、タイムマネージメント力向上のための指導助言に力を注ぐ。 ○失敗を恐れずに何事にも挑戦する心を持った、芯の強い生徒を育てる。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒一人ひとりに高い進路目標を設定させ、一人でも多くの生徒が進路実現できるよう貢献する。	○主に、1・2学年と連携し、生徒に先を見据えさせ、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を実践させる。 ○3学年との連携を強め、進路室の環境をさらに向上させ、進路相談のさらなる充実を図る。 ○東大を含めた難関大および医学科の研究を通じて、「東大(難関大・医学科)研究会」を機能させ、生徒の意識向上を図る。	A	学年との連携をもとに、東大見学会や自治医科大あるいは1年次・2年次での医療機関体験学習等を行った。また、2年次を中心に各大学のオープンキャンパスに参加させた。2年次においては、大学研究室訪問を通して、生徒一人ひとりに高い進路目標を設定させ、主体的かつ計画的な学習が進められるように導くことができた。3年次においては、予備校との連携において東大、医学部だけではなく、一橋大学・東北大学・筑波大学等の対策講座が実現した。進路指導室の生徒の利用のしやすさもここ3年間で上昇しており、3年生の利用しやすさは昨年度の45、4%から本年度は61、6%まで上昇した。さらに、一人でも多くの生徒が進路実現できるよう指導の充実をはかりたい。
	学年との連携を図り、生徒や保護者に、機を捉えて適切な進路情報を提供する。	○学年と連携をし、生徒や保護者に講演会やガイダンスを通して、進路情報を提供する。 ○1・2学年も含め、3学年の主任との定期的な情報交換を行う。 ○「進路通信」を定期的に発行し、情報を提供するとともに、進路意識を高める。 ○新テストに向けて情報収集を行い、職員間に共有できるよう情報を提供する。	A	1年次では、外部の講師に頼らず、学年と進路指導部との協力のもとに本年度も保護者対象進路講演会を開催し、今後の新テストの情報等を保護者に伝えることができた。3年次においては、進路講演会に保護者も参加してもらい、講演会を効果的に実施することができた。また、必要な連絡がある場合には学年会議で情報提供を行った。さらなる質の向上を目指して、生徒や保護者に情報を発信していきたい。「進路通信」に関しては、もう少し、発行回数を増やしていきたい。
	生徒のデータを、3年間通して見渡せるような進路情報システムを確立し、それらの情報・データを職員間で共有できる環境を整備し、さらに、指導技術の向上に努め、一層の進路指導の充実を図る。	○3年間の成績データ集積システムを完成する。 ○外部の研究会に積極的に参加し、その情報を教員間で共有し、生徒へ還元する。 ○校内模擬試験の位置付けを確実なものとし、その分析結果を本校独自の進学指導資料として活用する。 ○現役生はもちろん浪人した生徒も含めて、進路確定まで継続的な指導を目指す。	B	3年間のデータ集積に関しては、本年度で3年間の成績集積システムが完成する。校内模擬試験の扱い方、出題意図も各教科・学年で議論が進められ、第3回のデータがより重視されるスタンスが定まった。次年度に向けても良いデータを集積していきたい。浪人生についての指導は、激励会を年2回のペースで実施している。地元の予備校で浪人する生徒が増えたが、卒業しても進路確定まで継続的な指導を目指したい。
研究構想	一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業を充実させる。	○「心に火をつけるフォーラム」「社会人インタビュー」「校風理解(講演会)」「大学模範講義(5教科主催)」を通して、自分の在り方・生き方や進路について考えさせる。 ○課題研究や「知能プロジェクト発表会」を通して、自ら課題を発見し多様な視点から論理的に考察する力や自己を表現し他者に伝える力を培う。	A	本校では「心に火をつける教育」推進事業と銘打ち、「総合的な学習の時間」を活用して実施した。生徒の学ぶ意欲を喚起し、高い視点と広い視野を醸成し、将来の在り方・生き方について考えさせることができた。2学年全生徒が課題研究に取り組み、クラス発表会を経て、代表による「知能プロジェクト発表会」を実施することで充実した活動ができた。次年度も継続して取り組みたい。
	教員の授業力向上を図る。	○新任者授業見学会・校内授業公開による実践研修、筑波大学附属高校等の教育研究大会・駿台教育研究所の教育研究セミナー等による指導法研修を行い、質の高い授業を研究する。 ○校内教員研修会・県外進学校視察を行い、難関大学進学指導やHR経営等の知識やノウハウを蓄積・継承する。	B	校内授業公開を年2回実施し、全教職員による相互授業参観に取り組み、授業力向上を図ることができた。筑波大学附属高校等の教育研究大会へ2名、駿台教育研究所の教育研究セミナー等へ5名を派遣し授業研究を行い、各教科へ普及した。校内教員研修会を実施し、本校のベテラン教員による講話からその動的情報を共有し、経験値を継承することができた。また県外進学校視察により、難関大学進学指導等の情報を得ることができた。次年度も継続して取り組みたい。
	開かれた学校づくりを推進する。	○中高連絡会や、高大連携を推進し、相互に連携・交流を深める。 ○学校公開や「道徳」公開授業を行い、本校の教育活動や取り組みを広く周知する。	B	中高連絡会により、有意義な情報交換ができた。学校公開は、「道徳」や「道徳プラス」の授業を含めて、午後の3時限の公開授業とした。来校者は168名にのぼり、学習活動については高い評価を得ることができた。次年度も継続して実施する。
	充実した教育活動により、未来を担う人材を育成する。	○「総合的な学習の時間」を通して、進路意識と探究心を刺激し自らの将来像を考えさせ、「道徳」「道徳プラス」を通して、道徳的判断力や道徳的实践意欲・態度を育成する。 ○学習のしおり(シラバス)、課題研究優秀論文集、海外派遣プログラム報告書、紀要、本校独自の道徳ノートを作成し、3年間を見通した学習の計画や1年間の教育活動の振り返りに資する。	A	「道徳」や「道徳プラス」の授業を、「道徳ノート」を利用して効果的に実施できた。シラバスの充実により、講座選択や3年間を見通した学習が円滑に進められた。「課題研究優秀論文集」「海外派遣プログラム報告書」「紀要」により、1年間の教育活動の振り返りができた。次年度もグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指し、「心に火をつける教育」推進事業、授業研究等による指導力向上対策、開かれた学校づくり等、充実した教育活動の研究に継続して取り組みたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図る。	○挨拶を励行するように指導する。 ○校外・地域等に進んで貢献・奉仕しようとする意識を持たせる。 ○水戸一高生として誇りの持てる行動をするように指導する。	B	ほとんどの生徒は挨拶の習慣が定着しているが、来校された方から挨拶がなかったという指摘があったように、定着していない生徒も一部見受けられる。全校生徒に挨拶の習慣を定着させ、外部の方と会ったときも自然と挨拶ができるように取り組んでいきたい。
	学校生活の安全を図る。	○思いやりのある豊かな人間性を養い、人間関係を円滑にし、水戸一高生として自覚ある行動をとるように指導する。 ○生徒の精神面のサポート体制を、各学年、保健厚生部、スクールカウンセラーとの連携を強化して、生徒一人一人に対応できるようさらに充実させる。 ○不必要な現金や物品は学校に持参しないようにし、私物はロッカーの施錠をするなどし自己管理を徹底させる。	B	全体としては、他者を思いやること、水戸一高生として自覚のある行動をとること、ができており、落ち着いた学校生活を送ることができていた。一部にスマートフォンやSNSの不適切な利用によるトラブルが見られたので、今後、各学年等と連携しながら対応をとっていきたい。養護教諭を中心とした保健厚生部のカウンセリング等による生徒の精神面のサポート体制は充実していた。一方で、外部のスクールカウンセラーによるカウンセリングは、担当者が新しく変わり、そのことが全体に浸透するまでやや時間がかかり、利用者が前年より少なかった。次年度改善に努めたい。
	交通安全の意識を向上させる。	○交通法規の遵守を徹底させる。特に、本城橋周辺の道路工事の終了に伴い、交通状況の変化が予想されるので、交通法規を遵守した安全な登校を呼びかける。 ○交通事故が減少するように、交通安全指導を行う。今年度は、イヤホン等をしたまま自転車に乗らないように重点的に指導する。	B	年度当初、軽微な交通事故が立て続けに発生していった。担任を通して注意を喚起し、掲示物で交通安全を呼びかけるなど指導を強化し、その後の発生は抑えることができた。次年度は年度当初から指導を強化したい。自転車で登校する生徒の一部に、イヤホンをしているものが見られ、そこに重点をおいた登校指導を継続したい。
	いじめ問題を適切に対応する。	○いじめについて、早期発見、未然防止につとめる。 ○いじめ問題を解消・解決させるために関係機関との連携を図る。 ○いじめに対する教職員向けの研修を実施し意識を高揚させる。	B	いじめ対策会議を定期的に開催し、情報を共有することでいじめの未然防止に努めた。いじめの研修を行い、教員のいじめ未然防止の教職員の意識を高揚させた。いじめなしの学校をめざす。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
渉外	学校行事を円滑に実施する。	○入学式・卒業式を、関係する学年や各分掌と連携、協力して円滑に実施していく。	B	B	入学式・卒業式とも保護者の出席率が高く、本校に対する保護者の期待と感謝の気持ちの表れと思われる。近年、車椅子で式典に出席される保護者がいるので、介助の対応をさらに手厚くしていきたい。
	奨学会関係の企画を、各分掌と連携して円滑に進める。また、同窓会との関係を密にする。	○奨学会総会並びに奨学会役員会の企画・運営を、各分掌と協力して円滑に進めていく。 ○保護者や学年への連絡・報告を適切に行い、様々な学校行事が円滑に進められるように内容を工夫改善していく。また、70%におよぶ奨学会総会の出席率を維持していく。 ○同窓会との連携・連絡を適切に行っていく。 ○高等学校PTA連合会関連行事を用いて、本校教育活動の発信に努めていく。	B		奨学会役員会や奨学会総会で予算案の提案をしたが、無事に承認を得て、生徒の活動を支援する項目の増額に貢献できた。次年度の予算についても継続していきたい。 奨学会総会の出席率は73.7%であった。次年度も70%を超える出席率を維持していきたい。 同窓会の140周年事業について、その趣旨を理解していただけるよう現職員へ説明を重ねた。再来年度11月の140周年式典の成功に向けて、次年度も同窓会との連絡・連携を適切に行っていきたい。 11月1日「茨城教育の日」の出席は欠かしていないが、高等学校PTA連合会関連行事への参加は多くなかった。他事業との日程調整や旅費等の課題はあるが、次年度は行事内容を見極め、本校にとって有意義な行事については参加できるよう計画をしていきたい。
	奨学金関係事務を適正に実施する。	○奨学金関係の事務および奨学生の選考に関する事項等を、適切に行っていく。	B		奨学金については、生徒の希望に添った奨学金制度を紹介し遺漏なく手続きをすることができた。次年度も奨学金制度の普及と、奨学生の選考について適切に行っていきたい。
情報	教室に配備されたPCの利用に関する研究及び適切な運用を図る。	○情報機器に対する慣れた生徒が増え、PCの処理能力の向上にともない、使用形態に変化が生じると考えられる。SNSや、オンラインゲーム、通信ソフト、WiFiなどの要求が増えたと考えられる。掲示物等を利用して、自分だけでなく他人の個人情報の扱い、ウィルスの脅威などはもとより、些細な書き込みなどが大きな影響を引き起こす危険もあることに對しても注意を喚起していく。	B	B	生徒からのWiFiの要求は増える一方である。学校でゲームやSNSを通信料をかけずに行いたいとの欲求が根底にあると考えられる。制限の必要もあり、私立のような費用をかける訳にもいかず、研究を要する。 個人情報の保護、ウィルスの脅威に関しては他人の情報も保護しなければならないことを引き続き生徒だけでなく、教師側も含めて注意を喚起していく。
	PC、PJの管理、貸与、運用を図る。さらに、個人情報の漏洩及びウイルスの侵入の防止を図る。	○職員各々が授業でもPCやPJを利用して高いスキルを持っている。IoT機器も増え、個人情報漏洩やウイルス感染などの危険も増大しており、さらなる注意が必要である。PCの能力も上がり、デジタル化が進むことで情報を手軽に扱える分、ウィルスの侵入防止、個人情報の保護の重要性を繰り返し喚起する。	B		PCやPJの使用が増え、設定変更でくほど先生方のスキルも上がっている。しかし油断するとウイルス感染の危険もあり、さらなるIoT機器も増える中、さらに注意を喚起する。
	HPの充実を図る。	○昨年度はWebPageの移行がありシステムが新しくなった。今年度はシステムに合わせた学校WebPageの内容を精選し充実させ広報活動に貢献する。	A		WebPageの更新は、比較的順調に行えた。校長ブログの評判が高く、アンケートでも好評である。部活動に関しては各顧問の先生方の編集権も考える。
	学校評価アンケートの処理の簡潔化を図る。	○手続き上の簡素化は効果がみられたと考えられ、今後も同様に対応する。その一方でデータの処理に関してはさらに処理の短縮が可能かどうかコストを視野に入れながら検討し、グラフ化に当たったの正確性を検証する。	B		データの読み込みに対してエラーを少なくする方法を試す。アンケートの処理時間は限界である。したがって、アンケート収集方法を研究するべきだろう。
図書	自学自習を支援する図書館として一層の充実を目指す。	○検索システムの安定を図る。 ○各教科の授業で推奨図書の紹介を心掛けてもらう。	B	B	検索システムは、必要な書籍の検索によく利用されている。授業の中で本を紹介してもらい、図書館でその展示を行い生徒の読書活動を活性化した。今後も読書と自学に資するアイデアを出していきたい。
	読書の推進を図る。	○授業の中で図書館の積極的な利用を図る。 ○読書の推進を図るためのアイデアを検討する。	A		国語や地歴、総合的な学習の時間等で図書館が積極的に利用された。新着図書、教員や図書委員の紹介した本を、ポップを使うなどして見やすく効果的な展示を行い、魅力的な紹介となるよう心掛けた。学苑祭で来校した卒業生や保護者が紹介してくれた本の掲示等によっても読書を推進した。各教科と連携した読書推進の方策なども考えてみたい。
	生徒委員会活動のさらなる活性化を目指す。	○クラス委員だけでなく希望委員を募り、図書委員会のリーダーを育成する。	B		クラス委員に加えて希望委員も日々の業務をきちんと行った。「ビブリアバトル」と「読書会」を委員の企画・運営によって実施した。委員会誌『図書』は、編集委員の努力によって充実した内容となった。こうした活動をさらに充実したものにしていきたい。
	年報を発行し、本校の足跡を正しく記録する。	○年報の発行に向けて、効率的な仕事の分担を図る。 ○資料室を整備する。	B		夏季休業中に資料室の整理を行った。26年度・27年度の年報を発行することができた。今後も年報資料のデジタル化を進めていきたい。
保健厚生	学習環境の整備に努める。	○校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。また、ゴミの分別を行うようにする。 ○教室内・各教科準備室等の空気・照度検査、飲料水の水質検査を実施する。 ○年度当初に健康診断が集中するなかで授業時間が確保できるよう計画を工夫する。	B	B	校舎内外の清掃の徹底は図れなかったと考える。隅々まで目を通した清掃が行われるよう、監督者の協力で行われるようにしたい。また、教室内フロアのワックスがけを予算の付けられる範囲で実施していきたい。環境検査は問題なく実施された。健康診断中の生徒の待機姿勢を注意していかなければならないと感じる。
	心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	○健康診断や保健室利用時などの機会をとらえて、保健指導を行う。 ○日常生活の中で、事故・怪我等がないように身の回りの注意を払う。 ○スクールカウンセラーを有効に活用し、心身の健全な育成を目指す。 ○新興感染症に関する情報と予防法の周知と実践を指導する。 ○健康情報提供のための「保健だより」を、毎月1回発行する。 ○防災に対する意識を高め、校内の状況と避難経路の確認を怠らない生活をする。また、校外においても緊急事態に対応できる力をつける。	B		平成時代で初の学級閉鎖が出たことは大変残念な結果だった。次年度以降日頃からの健康教育に力を入れた指導を、保健厚生部と各学年の先生方との連携を密にし、感染症対策をしていかねばならないと感じる。 登下校の際の交通事故や不注意による事故に特に気をつけさせ、また体育の授業・体育的行事での事故やケガに万全の注意を払わせていかねばならないと考える。 緊急時対応・防災に対する意識を高め、日常生活における安全・安心を心がけることが重要なことと考える。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1 学年	基本的な生活習慣の養成を図る。	○挨拶の励行。 ○時間厳守。 ○規範意識の醸成。	B	B 入学当初から挨拶の励行、時間厳守等の基本的な生活習慣が身につけている生徒が多く見られ、年間を通して落ち着いた学校生活が維持された。また、学年全体として支援を必要とする生徒の把握も進み、次年度以降、指導上留意すべき事柄として学年団で情報共有するための素地ができた。一方、規範意識の面で一部SNS等の不適切な利用が見られたため、今後継続的に指導する中で成長を促していくつもりである。 進路指導部および研究構想部と連携した「東大探訪」「社会人インタビュー」等の行事により、文理選択のもととなる学問的興味関心が喚起された。また、学習面では主体的学習が慣行されているとまでは言えないが、各教科の指導のもと、年間落ち着いた学習態度で臨むことができた。家庭学習時間の平均はほぼ例年同様に推移しているものの、次年度に向け、家庭学習時間の確保をなお一層促していくつもりである。 生徒の多くが学校行事、部活動、委員会活動に積極的に参加し、それらの活動をとおして水戸一高生としての自覚と自信を身につけた。次年度は本校の特別活動における中核をなす学年となるため、生徒の自主性を尊重しつつ学年としても引き続き支援していくつもりである。
	自主自律的な学習習慣の養成を図る。	○知的興味関心の喚起。 ○主体的学習への移行支援。 ○家庭学習時間の確保。	B	
	特別活動への積極的な参加を促す。	○学校行事、部活動、委員会活動への積極的な参加の促進。 ○各種大会への積極的な参加の促進。	A	
2 学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	○挨拶の励行。 ○時間厳守の徹底。 ○規範意識の確立。	B	B 挨拶や時間厳守などの基本的な生活習慣について、多くの生徒が意識的に生活を送ることができ、確立した生徒も多い。規範意識も概ね醸成された。 養護教諭との連携のもとで、悩みを抱える生徒の早期発見に努めた。そうした生徒達への精神的ケアについては、養護教諭と十分な相談をし保護者の理解と協力のもとで継続的に実施することができた。しかし、悩みの解消には至っていない生徒もあり、引き続き支援していく必要がある。 進路行事や学年行事をとおして多角的に生徒の知的興味を刺激することで、意識喚起ができた。生徒も活動に前向きに参加する姿勢がみられる。学習活動については、生徒個々の家庭学習時間の差が拡大し、十分な確保に至っていない生徒も少なからずいる。内発的動機づけを強化し、引き続き主体的な学習の確立に向けては支援を継続していく必要がある。
	健康的な生活の成立を図る。	○養護教諭との連携。 ○悩みを抱える生徒の早期発見と細やかな精神的ケア。	A	
	自主自律的な学習習慣の確立を図る。	○知的興味関心の喚起、刺激。 ○主体的学習への意識改革。 ○家庭学習時間の確保と学習の質の向上。	B	
	特別活動への積極的な関与を図る。	○学校行事、部活動、委員会活動への積極的な参加の促進。 ○特別活動への主体的参加の支援。 ○各種大会への積極的な参加の促進。	A	
3 学年	高い進路目標実現に向けた、自主自律的な学習の実践。	○生徒一人ひとりの高い進路目標をしっかりと支え、一人でも多くの生徒が希望進路を実現できるよう、学年全体で支援する。 ○将来を見据え、自立した学習習慣を確立し、目標達成に向けて、自主自律的な学習を実践することができるように導く。	A	A 生徒面談等とおして、一人ひとりの高い進路目標をしっかりと支え、学年全体で支援し、生徒の希望進路を実現することができた。一方で、生徒の希望進路は多様化しており、より細やかな指導が求められる。将来を見据え、自立した学習習慣を確立し、進路目標の達成に向け、自主自律的な学習を実践できたものの、進路目標が明確にするための支援、そして目標を最後まで追求するための支援が必要である。 規範意識の確立は概ね達成することができたが、基本的な生活習慣の確立などに苦勞する生徒も見られ、教員間の連携や保健室等との連携により、支援することができたが、より綿密な連携が必要であった。 学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動に、最高学年である意識を強く持ち、行動できたが、生徒の主体的行動については、さらなる積極性を求めることができる。主体的な行動の結果として、様々な経験を積み、社会に貢献できる豊かな人間性を育むことができるような環境作りを考える必要がある。
	将来を見据えた、広く社会に通じる生活習慣の確立。	○規範意識を確立し、時間厳守、挨拶、掃除など、当たり前のことを当たり前に行える学年団づくりを目指す。	B	
	社会に貢献できる総合的な人間力の育成。	○最高学年であることの意識を強く持ち、学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動において主体的に行動し、様々な経験を積み、社会に貢献できる豊かな人間性の育成を図る。	A	

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない